

やまなしの福祉

2014.

3

月号

No.316

社会福祉法人 山梨県社会福祉協議会
甲府市北新1-2-12 TEL:055(254)8610・FAX:055(254)8614

<http://www.y-fukushi.or.jp/>

【特集】自らの地域を見つめ直そう



P2 ▶ コミュニティソーシャルワーク
について

P5 ▶ 在宅療養を支える地域の力
～訪問看護ステーションの役割～

P6 ▶ 「地域にご恩返しを」という
思いから始まったボランティア活動
(育児ボランティア・かつぬま)

P8 ▶ 心の距離を縮める鍵『甲州弁』(五緒川 津平太さん)

P10 ▶ 人と人をつないで、地域の魅力を再発見
信頼で成り立つNPO活動
(NPO法人 富士川・夢・未来)

P11 ▶ 福祉施設訪問(就労支援事業所 かしのみ)

P12 ▶ 福祉人材センター情報

P14 ▶ 福祉用具紹介



開会式(2月1日富士川町)



ワークショップの目的と目標の説明



グループワークの様子

小地域生活課題解決事業

コミュニティ ソーシャルワーク フォーラムについて

「住み慣れた地域で安心して生活したい」誰もが思う願いです。しかしながら、現代社会では、社会生活の基盤となる地域において、少子高齢化の急速な進行、人間関係の希薄化、子育てや介護さらに虐待や孤独死など早急に対応しなければならない生活課題が山積みです。

このため、そこに住む地域住民自らが、その地域についての生活課題を共有し、協議や検討を重ね、解決策を探っていくことが重要であると考えます。

そこで、本会では、地域住民と福祉に関わる様々な分野の実践者が集い、地域における身近な課題についての討議を通して、課題解決のための手法を共に学ぶことを目的に市町村社会福祉協議会とフォーラムを開催しています。

▶▶▶ フォーラムの特色や効果

- ワークショップ方式(参加者が専門家の助言を得ながら問題解決のために行う研究集会)により参加者同士が課題を共有して協議検討するとともに、課題解決についてアドバイザーと一緒に考えるため、課題解決への企画力や実践力を身につけることができます。
- 地域福祉に関わる様々な分野の実践者が地域住民と交流し討議することによって、新たな発想や課題解決策が生まれ、今後の見通しを開くことが期待されます。
- 住民自らが自分の地域の特色を再認識し共有することで、住民同士が結束し連帯感を高めることができます。
- グループワーク(話し合い)による課題解決策の検討や企画を通して、コミュニティソーシャルワークのスキル(能力や技能)アップが期待できます。
- 地域福祉活動計画の策定や見直しをする際、課題の明確化や今後の取り組み方針等を地域住民の意向を踏まえながら策定することができます。

▶▶▶ 今年度は2会場で開催

本事業はこれまでに大月市や富士河口湖町など7つの市と町で開催してきましたが、今年度は富士川町と富士吉田市で開催しました。

参加者からは、それぞれの地域の特徴や問題点が次々と挙がり、課題が見えてきました。そして講師からのアドバイスを受けながら、今後の実践方法を探りました。

● 富士川町(2月1・2日 フォーラム開催)

高齢化に伴って認知症や孤独死など様々な問題が身近に押し寄せてきます。そこでテーマを「10年後、20年後も大柵地区で安心して暮らすために今からできること～未来に向けた地域づくり～」として開催しました。

● 富士吉田市(3月1・2日 フォーラム開催)

アパートが多く出入りが多い地域(住民とのかかわりが薄い)と昔からの高齢者が多い地域が混在している地区において地域を良くしていくための方策を考えるため、「安心して暮らすことのできる地域ネットワークづくり」をテーマとしました。

県社協では、県下全市町村に課題解決の仕組みを浸透させるため、今後も引き続き当事業を行っていくこととしています。

コミュニティソーシャルワークで 実践する、より良い地域づくり

コミュニティソーシャルワークを進めていくなかで大切なこと

“コミュニティソーシャルワーク”は、私たちの普段の生活にも深い関わりのある方法です。詳しいお話を山梨県立大学の神山裕美准教授にお伺いしました。

山梨県立大学人間福祉学部 福祉コミュニティ学科

かみやま ひろみ

神山 裕美 准教授



コミュニティソーシャルワークとは

例えば、高齢者への在宅支援を行うなかで、地域の方々が共通で抱えている問題が見えてきます。最近では老老介護、認知症、孤独死、引きこもりだったりするのですが、そうした問題を解決するため、この方々にどんな地域支援が考えられるかを企画・実施し、またその支援の成果が個人へ戻ってきているかを評価しながら繰り返すのがコミュニティソーシャルワークです。コミュニティソーシャルワークでは、個別支援だけでは対応できない課題の集積から、多くの方々に共通するニーズを見つけ、その対応策を住民と行政等の協働で取り組みます。そしてさらに、地域のサービス開発や改善にもつなげることを目指しています。

コミュニティソーシャルワーク の展開プロセス

コミュニティソーシャルワークの展開プロセスには4段階あります。

● 第1段階…「個別アセスメント」

対象者とその家族の身体状況、精神心理状況、社会的状況、生活歴、今後の願いや希望を聞き取り、どんな意思やニーズを持っているかを把握します。

● 第2段階…「地域アセスメント」

対象者が暮らす地域について以下の4点を把握します。①地域状況・特性、②社会資源、③地域住民に対する理解、④関係機関・関係団体の状況。

● 第3段階…「プランニング」

アセスメントより、その対象者への個別支援を考えるとともに、個人と地域に共通するニーズを検討し対策案を考えます。さらに、対策案から新たな社会資源開発等の地域支援計画をたてます。

● 第4段階…「実施・モニタリング・評価」

地域支援は、一度実施してうまくいくことは少なく、むしろその結果を評価して、再アセスメント・再計画により深まります。そして、その繰り返しから地域の関係者との協働がより深まっていきます。

例えば、地域で孤立している無職の子が、親の年金に依存しながら介護しているケースが多いと最近よく聞くのですが、この事例から、社会的孤立予防や子の就労支援等の課題が地域の共通項として見えてきます。そのために地域で今できることから、テーマや目的、対象、予測される効果、連携したい機関や人々、事前準備、実践内容、予算等を考えていくこととなります。



グループワークの様子

より良いコミュニティソーシャルワーク のための社協と行政の役割

私が社協の方々に対して感じているのは、もっとソーシャルワーク論を勉強し実践して欲しいということです。人とのコミュニケーション技術や、個人・地域ニーズを把握していく時の信頼関係形成のスキルなど、ソーシャルワーク論にはいろいろな実践モデルとアプローチの蓄積があります。医療や保健とは違う、ソーシャルワーク分野が100年余りの歴史の中で築いた理論モデルやアプローチがあります。それをもっと意識して使ってもらいたいと感じています。

地域支援方法についてもソーシャルワーク分野には参考になる理論や考え方がたくさんあります。社協はもともとコミュニティワークを行っているので、地域への支援方法はノウハウも経験も豊富です。ですがそのコミュニティワークが本当に住民のためになっているのかを見直して、次に生かすことが大切です。

社協が長年かけて形成した、地域からの信頼や組織としての強みを生かしながら、より個別ニーズ効果への循環を考えながら行動していくと、住民の方々にとってより心強い存在になると思います。

また、市町村が地域福祉計画を策定する際、行政機関、社協、事業所、そして住民代表と議論を深めて作り上げると、それぞれの機関との連携体制もできコミュニティソーシャルワークが進めやすくなります。そして地域共通課題の取り組みを地域福祉計画策定に生かすことで、個別ニーズ蓄積に基づく地域福祉計画の循環ができていくのではないかと思います。



アドバイスをする神山先生



大切なのは地域住民との信頼関係

コミュニティソーシャルワークのポイントは、地域共通課題の把握です。みんなに「そうだね」と言ってもらえる課題を発見することが一番のポイントです。その人達が興味ある課題だったり「何とかしなくては」と思うことなら、自然と皆さんが動いてくれます。その課題を見つけて、どう提示できるかが一番ポイントになる部分です。

あとは住民との信頼関係。住民活動の実際を把握していくと地域には住民活動を引っ張るキーパーソンの方がいます。その方に「役に立つ人材」と思っただけのような信頼関係を作ることによって「この人が言うならやってみよう」と思ってもらえるのが大事。地域の関係性は、お金で動くものではなく、お互いの信頼関係や思いやりが一番大切となります。

社協職員は伝統的にそのノウハウは持っていて、新規の介護事業所にはない、長い伝統の中での蓄積と信頼感があるのでうまくやっている所は多いです。住民との信頼関係と共通ニーズの把握は地域の方々との協働するための二大要素ではないかと思います。

在宅療養を支える地域の力

訪問看護ステーション

介護が必要になった場合、地域の行政、社会福祉協議会、訪問看護ステーション等がネットワークを結び、介護が必要な人の暮らしを支えています。しかし、医療処置が必要な方の在宅での暮らしは、専門的な知識や技術が要求されるので、本人が在宅生活を望んでいても困難なことがあります。そんな医療が必要な在宅療養を支えてくれる力になっているのが訪問看護です。

訪問看護は、医療保険での利用、または介護保険での利用が可能。看護師が自宅を訪問し、主治医や関係機関と連携をとり適切なケアとアドバイスで在宅療養者とその介護者を支援しています。



介護実習普及センターでは、介護に必要な知識・技術について、専門職の方々に講師をしていただき講座を開催しています。『終末期のお世話』講座では多数の参加申し込みがあります。それは、病院で長期間療養ができない、最期の時まで在宅療養したいと考えている方の増加と考えられます。そこで、講師をしていただいた公益社団法人山梨県看護協会 貢川訪問看護ステーション 緩和ケア認定看護師 望月和子さんと所長 雨宮きよ子さんにお話を伺いました。

Q. 訪問看護ステーションの方針や気をつけている点

- A. 貢川訪問看護ステーションでは、「どのような所に住んでいる方にも質の高い看護が提供できる」「24時間365日の対応」を大切にしており、土日・年末年始の時期もなるべく「いつも通りの生活」、またできる限り本人の意向に添った生活ができるように他機関との連携・調整を行いながら、柔軟な対応を心掛けています。

Q. 本人・家族の在宅療養へのアドバイス

- A. 不安は多いと思いますが、24時間体制での家族の付き添いが必要ということもないですし、仕事を辞めなければいけないということもありません。訪問看護では、家族の役割をお願いしながら家族自身の生活も大切にしてもらい、サービスを提供させていただいています。また外来で抗ガン剤治療をしながら在宅で過ごしている方は、医療保険での訪問看護が使える、副作用の観察・緩和ケアなどを取り入れ、穏やかに過ごすことができます。訪問看護では、知識や技術を丁寧に一緒に学んでいただき、できる限り不安に伝えていくことができます。最初から「無理」と思わず、在宅療養という選択も考えていただきたいと思います。

Q. 訪問看護のこれからの課題

- A. 病院完結型が地域完結型に転換が進む中、入院期間の短縮化から医療依存度の高い利用者さんが大勢在宅に帰ってきます。利用者や家族が安心して生活できるように、多職種連携をこれまで以上にすすめ、在宅で看取り、経済的な問題や障害を抱えた利用者には、地域包括支援センターや社会福祉協議会、行政、地域住民も巻き込んで訪問看護ステーションも役割を担っていきたいと思います。

県内にはさまざまな規模の訪問看護ステーションが40か所以上あり、それぞれのステーションの訪問看護師は在宅療養が困難と思われる方にも、少しでも穏やかな生活を自宅でできるよう、努力を積み重ねています。地域では、社会資源の連携が一層強化され、病気や障害、認知症になっても自分の家で暮らしていける社会・地域づくりに力を入れています。

「地域にご恩返しを」 という思いから始まった ボランティア活動

14年前に神奈川県相模原市から勝沼町(現 甲州市)へ
家族で移住されてきた富山静穂さん。
引っ越して半年後からはじめた
「育児ボランティア・かつぬま」の活動を通して、
数多くの出会いとともに、
地域への絆を深めていったといいます。

育児ボランティア・かつぬま 代表

とみ やま しず ほ

富山 静穂さん

相模原から憧れの勝沼へ移住

主人はもともと農業をしたかったし、私はワインが好きで頻りに勝沼へワインを買いにきていました。そのうち農業も、大好きなワインも、さらに温泉もいつでも楽しみたいと移住を決意。主人と次男、そして八王子から娘家族も一緒に引っ越してきました。

ちょうどその頃、私の心臓の具合が悪くなり、そういう状態なら一緒に住もう、と横浜にいた長男夫婦も来てくれました。今、いっしょに住む義父は100歳になり、こちらで生まれた孫もあわせると総勢9人という大家族で暮らしています。

温かく迎え入れてくれた勝沼の人たち

引っ越して最初の年に地区のバレーボール大会があり敢闘賞を頂きました。「新参者だから…」と遠慮する私に「みんなに認められたんだからもらってこーし」「よそから来た人間だからって遠慮することはないんだよ。そんなこと言ったら私だってよそから嫁に来たんだから」と声を掛けてくれた方たちは、今でもよくして下さいます。

近所のおじさんからは「富山さんは、ずっと昔からここに住んでいる感じがする」と言ってもらい嬉しかったです。私もそのおじさんをずっと昔から知っているような感覚になったのを今でも覚えています。私の性格も充分わかってくださり「ざっくばらんで明るいのが良いんだからそのままいけし」とも言われて。私はずっと地域に馴染んでいけました。ありがたかったです。

本当に恵まれた環境で温かく受け入れてもらえました。

『育児ボランティア・かつぬま』の仲間

小澤 まさ子 さん (写真左)

もともと愛育会に参加していて、乳児健診のお手伝いをしていました。その延長で、このボランティアに参加して、今年で8年目です。我が家は桃とぶどうの農家で春から夏は忙しくて、特に桃の収穫時はお休みさせてもらっています。でも富山さんは愚痴も言わずに全部出てきて、大変だと思います。協力は惜しみませんが、こんなに使命感を持ってリーダーとなってくれる人は他にはいないですから。いつも感謝しています。



ご恩返しの気持ちからのスタート

引っ越して半年後の10月に勝沼町役場に行った時に保健師の内田さんから「勝沼の育児専門ボランティア第1号になりませんか」と声を掛けられました。第1号という響きと、何より地域へのご恩返しがしたくて、感謝の思いから参加しました。

活動は年間20回以上“すくすく学級”や“マタニティークラス”など、お母さんが講習を受けている間に赤ちゃんのお世話をします。

最初の8年間はメンバー6人。私以外は他のボランティア活動との掛け持ちでした。時には20人以上の赤ちゃんをみる日もあって大変なこともありましたが、私は育児経験を生かし、赤ちゃんにとってより良い環境づくりを心がけ、育児専門ボランティアとして誇りを持って携わってきました。

メンバーを広報誌で募集したり、知り合いに声をかけたりして徐々に人数も増え、現在は14人まで増えました。でもメンバーの多くは農家さん。畑が忙しい春から夏の時期

は参加できない方が多いので、その分私が責任を持って全日程に参加しています。

元々持病がありましたから、家族は「お母さんの身体や精神状態が良かったら何よりじゃないか。でも無理はしないでね」と活動を応援してくれます。こちら感謝ですね。

みんなの信頼関係で成り立つ活動

今、こうして活動できるのも、立ち上げ当初に内田保健師さんはじめ、社協でボランティア担当だった武川さんに育ててもらったおかげです。私が活動の窓口役で、メンバーとコミュニケーションを図り、どんなことでもお互いに頼み、頼まれつつ活動してきました。もちろん一人で引っ張ってはいけないので皆さんと協力しながらやっています。今の社協の手塚さんと武井さんも信頼と尊敬のできる方たちですし、現在のメンバー14人も含め、活動に関わっている人全員が欠かせない仲間です。「良い仲間巡り会えたこと」が私の一番の幸せです。

高野 美津子 さん (写真右)

今年で活動4年目です。子どもの独立後、両親を見送り、何か生き甲斐が欲しいと思っていた頃に誘っていただき、「誰かの役に立つなら」と思ってはじめました。恥ずかしがりやな私ですが、みんなに助けをもらいながら参加しています。最近では活動にも慣れて、泣いている赤ちゃんが寝てくれると、こんな私でも役に立てて良かったなと実感。責任を持って活動する富山さんをはじめ、いろいろな方たちと交流できるのを幸せに感じ、活動を続ける励みとなっています。



心の距離を縮める鍵『甲州弁』



ごっちゃがわ つっぺえ た
五緒川 津平太さん

2009年…「キャン・ユー・スピーク甲州弁?」を出版
 2013年…7月「キャン・ユー・スピーク甲州弁?②」を出版
 2013年…11月第61回山梨県社会福祉大会記念講演
 「甲州弁が地域をつなぐ ～キャン・ユー・
 スピーク甲州弁?～」にて講師をつとめる

■ 甲州弁の本を出版するきっかけ

僕が携わっていたマイタウンという情報誌に毎月、甲州弁のコーナーを連載していたんです。連載のきっかけは、甲州弁特集を二回程やって、社内的にも甲州弁の話は盛り上がったので、これはネタとして長続きするということで始まりました。

連載は10年ほど続きましたが2008年にマイタウンが休刊となってしまう、時間ができたので2009年に再編集して自費出版しました。当初はあくまで副業的に考えてのことでした。でも思いのほか人気で、山梨県内の多くの書店で、その年一番売れた本となるほどでした。

■ 思わぬ反響と甲州弁の力の再発見

僕自身は甲州弁をネタに面白い本をというつもりで作りました。でもそんな思惑とは違って思わぬ所から反響がありました。「デイサービスで読み聞かせしたところ、ほとんど口をきかず、いつも無表情だった認知症の方が急に笑顔で喋り出し、その日はたくさん話をした」と、そんな話を聞いたんです。他にも東京に住む山梨県出身の父がうつ病で、この本を持って行ったらニヤニヤ笑って読んでいたと。「お父さんが笑ってる」って家族で喜んだという話をしてくれた人もいました。それから僕の友達でも体調が悪くてうつうつとしていたけど、この本を読んで笑って気が

晴れ、外に出掛けてみたくなったという話も聞きました。

こんな話をすると、まるでこの本が特別な効果をもっているみたいですが、それは甲州弁の力。この本に出てくる懐かしい言葉を聞き昔を思い出して、心が揺さぶられ、活性化されたのだと思います。

しかし、いきなり甲州弁を喋れと言われても出てこない。でもこの本を開けば「あった、あった、こういう風と言うじゃんね」となる。この本がみんなの真ん中に置いてあると話が広がるきっかけとなる。そういう役割があるのかとは感じています。

講演ならではの『アクセント教室』

最近、いろいろな会から講演依頼があり、伺わせていただいています。そこでは、文章では表現しづらい「甲州弁アクセント教室」を行っています。

僕が東京に2~3年も住んだ頃には完璧に標準語はマスターした訳ですが、アクセントだけはちょっと違うと言われるんです。なかでも役場（やくば）、苺（いちご）などが頭高になってしまいました。逆に嫁さんに“うちぐ”、“ぶっかる”等のアクセントを教えてもなかなか覚えしてもらえなかったです。それで講演では「どうしても覚えられない方は…」と言ってベッカムの写真を出して「“ベッカム”の言い方で教えてください」とかなりの共感を得られました。

僕は南アルプス市出身なので関西地域で話す時は何の気遣いもない。でも北巨摩や関東地域に行くと「ちょっと違うね」と言われる。同じ甲州弁といっても微妙に違うんで面白い。だから今後は各地域の微妙な違いを、調べていきたいと思っています。

甲州弁の魅力とその役割

甲州弁で話しかけると言うことは「私もあなたと同じ地域の仲間ですよ」という合図。「えらくさぶいじゃんねえ」と言うだけで距離が一気に縮まる。アクセントにうるさいのは、自分の地域を誇りに思うからこそ。だから同

じ地域の言葉で話しかけるとホッとします。介護などでも、そこが重要になってくると思います。介護士さんと利用者さんの距離を縮めるのに役立ったり、安心感を与えたりすると思います。

方言は生まれて一番最初に覚える言葉で、母親や家族が喋る言葉だから、心の芯に近い言葉だと思います。その後、標準語や英語とかも覚えて積み重なっていきませんが、一番の基は地域の言葉。寒い地方は寒さや雪を表現する言葉がたくさんあるように、地域の人たちの感じることを繊細に表現するのが方言です。

僕は甲州弁を聞くと亡くなった祖母の声で聞こえてくることがある。甲州弁は、なつかしい人の顔や雰囲気まで言葉と一緒によみがえるタイムカプセルで、匂い、味、景色とか心の奥深くにしまわれていたものを出してくれる感じ。それは一人ずつ、みんな違うけど、その人にとっては、温かくて大切なもの。だから聞いたり話したりすると心が活性化されるのかと思っています。甲州弁が心の扉を開く「心の鍵」となると信じています。

次世代に伝える甲州弁

甲州弁は多分薄れていくと思います。でも、それはしょうがない。言葉ですから。ただ全国一律標準語になったら寂しく思います。

実は、私の本の調査も30代以下の人には聞いてないです。聞いても「この言葉、知らない」で終わってしまう。基本40代以上じゃないと調査ができませんでした。30代以下の人には甲州弁が根付いてない。「おじいちゃん言ってた」くらいで、既に自分の発する言葉ではなくなっています。

ただ、最近若い人が面白がって方言を使うというのがありますよ。「じえじえじえ」とか。僕らの世代が東京で方言が恥ずかしいと思っていた頃とは風潮が変わっています。方言を話すことは個性の一つ。田舎者だと思われるたくないという雰囲気はちょっと変わっているように思うので、そこに希望はあるのかなと思っています。

福利厚生センター
Sowel
CLUB

ソウェルクラブ “クラブオフ”
をご利用ください。

新規会員募集中!

会員数226,000人

**ソウェルクラブの
サービスがさらに充実!!**

これまでのサービスに加え、
全国宿泊・レジャー・スポーツ・映画・グルメなど約
75,000施設が優待料金で利用
できるようになりました。

**ゆっくり過ごし、
くつろぐ
“リゾート・宿泊”**

国内外の宿泊施設
約67,000軒が最大
80%オフ!!

**休日を豊かに楽しむ
“レジャー・
日帰り湯”**

映画割引チケットや全
国約700か所の遊園
地、水族館などが最大
75%オフ!!

**暮らしを彩る
“グルメ・ライフ
サポート”**

グルメ、ショッピング、
レンタカーなど生活に
役立つメニューが最大
50%オフ!!

**心も体もリフレッシュ
“ビューティー
&スポーツ”**

スポーツクラブ、マッ
サージ、エステなどが
会員優待価格!!

サービスのご利用には会員登録が必要です。詳しくはホームページから会員専用ページ「ソウェルクラブ・クラブオフ」をご覧ください。(http://www.sowel.or.jp)

会員本人と同行者全てがサービスを利用できます。会員本人が同行できない場合は会員と同居している方(配偶者、2親等)までを代表者として同行者全てがサービスを利用できます。

お問い合わせは… 福祉振興課 ☎055-254-8610

人と人をつないで、 地域の魅力を再発見 信頼で成り立つNPO活動

NPO法人 富士川・夢・未来

くぼ た ま ゆみ
事務局 窪田真弓さん

峡南地域ファンクラブ 『富士川・夢・未来』

山梨県の峡南地域（富士川町、市川三郷町、早川町、身延町、南部町）には歴史や文化、農産物などの資源がたくさんありますが、あまり知られていないのが現状です。

そこで、私たちはそのような資源を皆さんに知ってもらえるように情報発信し、地域の方や地域から出ていった方を中心に峡南地域ファンを増やし、地域活性化を目指し活動をしています。

峡南地域の情報をより多くの方へ

夏に市川三郷町の甘々娘というトウモロコシが好評で「お祭り会場で売り切れました」とテレビで放送されました。実際、農家では余っているのですが、テレビを見た方は「もう食べられない」と思ってしまう。そこで私たちのホームページでは、どこなら買え、どこでなら食べられるのかという情報を発信しました。

私たちはこうした地元の細かな情報がリアルタイムに発信できるよう、力を入れています。また、新聞やテレビ、ラジオなどメディアにも情報を伝え、取材を促す活動もしています。こうした地域の情報が多く届き、活性化につながるようお手伝いをしています。さらに地元の方々には外からの評価を受けると、地域に誇りを持てるようになります。

活動の基は強力なバックボーン

会員は地域を中心に200以上いらっしゃいます。私の中でも地域のキーパーソンともいえるべき方をお願いして、さまざまな地域の方や資源を紹介していただきました。また、柚子味噌やお惣菜を作っている直売所のおばあちゃん、特産品を栽培している農家の方々とも仲良くさせてもらい、同じように人や地域情報などもお教えいただきました。紹介していただいた方からまた次の方と、みなさんにご協力いただきながら活動を続けていますが、これは理事、会員の皆様、地域の方々の支援があるからこそできる活動だと思います。

当NPOの理事長は（株）はくばくの会長ですが「はくばくの会長のNPOです」と言うと信頼があり活動しやすい面もありますが、その代わりに、相手の信頼を裏切ることや、無理をさせることはできません。

ケータリング事業では、地域の飲食店や直売所、農家さんへまんべんなく経済効果をもたらされるように組み立てて事業を進めています。その一方で、人材育成のマッチングや各種協議会、実行委員会のお手伝いなどは金銭的なやり取りがありません。つなぐという活動は、金銭を介するものと介さないもののバランスであり、皆さんが継続してかかわっていただける状態を作ることの大切さを感じています。人をつなぐという活動はお金が介在しないから皆さんに活用されるもの。そこは非営利に徹しています。

私はツアーの企画や商品化等の提案は、自分が本当に動けるようになるまでは言いません。アドバイスだけだと反感を買うだけ。開発した物は私たちが買い取りをし、責任を持って最後までやるという所を見せていかないと本当の信頼につながらないと思っています。

アウトソーシングを基本にした “つなぎ役”として

理事長は「このNPOが大きくなる必要はない」とおっしゃいました。地域活性化のつなぎ役としては、NPOがどんなに大きくなろうとも、地元が活性化しなければ意味がないということです。存在するなら小さいほうが動きやすいですし、今後も何か必要があれば、地域の方にアウトソーシングをお願いし、それ自体も効果として実感できるしくみを作っていきたいと考えています。

さらに「富士川・夢・未来がやるのではなく、地域の方がやる気になる仕組みを作るべきだ」ともおっしゃいました。これからも峡南地域の方がつながり、やりがいを持ち、いきいきと活動できるしくみづくりを進めていきます。

福祉施設 訪問

障害があっても、 きちんと働ける場を 提供していきたい

就労支援事業所 かしのみ

- 住所…〒400-0034 甲府市宝1-29-9
- 電話…055-232-6613

昭和62年、障害者の居場所づくりのために作業所を立ち上げたのが発端で、その後「一人でも多くの障害を持った方に就労の場を提供し、地域で自分らしく生活出来るようにしたい」という思いから、事業所を立ち上げました。障害者(利用者)の方へ就労の機会を提供するとともに、個々の可能性を伸ばし、個々の目標の実現に向けて訓練を行っています。現在の主な作業は、家具の部品組み立て、メール便の配達と仕分けなどです。



昨年8月からは、利用者の工賃アップとやりがいや自立を目指し、山梨県の名産である果物に着目し、県内産の新鮮な果実、りんご・ぶどう・キウイ・ゆず・いちご等を使ったドライフルーツを加工・販売を行う「かしのみラボ」を甲府市の朝日通りに開所しました。まだ始めたばかりで、利用者と職員がお互いに意見を

出し合い、できることから取り組んでいる状況ですが、利用者からは「ドライフルーツを一から作り上げていくので楽しい」「果実が乾燥され、製品になっていく様子が楽しい」など作業の楽しさや、売れていく様子や販売に携わることで「張り合いになる」などの感想が出てきています。現在では、自分から考えて行動する利用者も見られるようになりました。また、イベントなどに積極的に参加し、自分たちで作ったドライフルーツの販売や果実農家のお手伝いのため、ぶどうの収穫なども行っています。

「今後は、もっと多くの方に私たちの作ったドライフルーツを食べていただくため、そして障害を持った方が働ける場所を広く提供するためにも販売経路の拡大を目指していきます」と施設長の小俣弘美さんは話します。



日常生活自立支援事業のご案内

「最近、物忘れがひどくなった」など感じることはありませんか？

介護保険や福祉サービスの利用手続きがわからない、お金のやりとりや預金の出し入れに自信がない、通帳や年金証書などの大事なものをなくしてしまうなどの不安には地域の社会福祉協議会の生活支援員等が確かなサービスでお応えしています。

日常生活自立支援事業は、県内に在宅または施設利用あるいは入院生活をされている認知症高齢者、知的障害・精神障害のある方々などのうち、自身の決定能力が低下しているため、様々な福祉サービスを適切に利用することや金銭管理がうまくできない方を対象とした事業です。

利用を希望される方は、お住まいにある社会福祉協議会にご相談ください。

■ お問い合わせは…福祉振興課 生活支援担当(地域福祉権利擁護センター) ☎055-254-1820

FUKUSHI-JOB SEARCH
福祉のお仕事

求人登録
事業所の
皆様へ

「スカウトサービス」をご利用ください。

「福祉のしごと求人求職ニュース」の紙面に掲載している「求職者情報」を見た求人登録事業所のリクエストを受け、福祉人材センターが登録求職者に応募の意向を確認するサービスは「スカウトサービス」としてリニューアルしました。

このサービスは、求人登録事業所が募集する求人に対して登録求職者を指名し、当センターが応募の意向確認を行うものです。ご利用いただく

と、求人票を公開して待つだけでなく、積極的に求人応募者を探することができます。

また、求職者の方々も求人票から応募先を探すだけでなく、求人事業所からの指名を受けることができるメリットがあります。当センターへ求職者登録をして、積極的に「スカウトサービス」をご利用ください。

「スカウトサービス」の利用方法

- STEP1** インターネット情報サイト「福祉のお仕事」求人事業所用ページから求人を申請
 - 求職登録者に求人条件を提示するため必須
- STEP2** 「求人事業所用ページ」の「求職者情報の検索・閲覧」でスカウトする登録求職者を検索
 - 個人情報を除いた情報を公開（住所、氏名、電話番号等の個人が特定できる情報は非公開）
- STEP3** 指定様式「スカウトサービス申込書」によりFAX等で申込
 - 1度につき最大5名まで、電話のみでの申込は受付けておりません。
 - 指定様式「スカウトサービス申込書」は、本会ホームページからダウンロードできます。
- STEP4** 登録求職者に応募意向の確認
 - 迅速な確認に努めますが、登録求職者が検討する期間も含めて最長1週間程度
- STEP5** スカウトの確認結果を申込求人事業所あてにFAX等で回答
 - 受付した指定様式「スカウトサービス申込書」に結果を記載して返信します。
 - 経過報告等の詳細は、申込求人事業所あてに電話で報告します。
 - 次回スカウトの申し込みは、確認結果をFAX等で返信してからの受付になります。

「求職者情報の検索・閲覧」機能の利用方法

STEP1
トップページから「求人掲載をご希望の事業所の方はこちら」をクリックし、「事業所マイページにログイン」からログイン

STEP2
「求人事業所用ページ」にログイン後「求職者情報の検索・閲覧」をクリック

STEP3
「求職者情報検索」から希望条件を入力し「検索」ボタンをクリック

STEP4
検索結果の表示
スカウト希望者を「スカウトサービス申込書」により当センターへ申し込む

求職者登録 のご案内

当センターで取り扱う求人は、インターネット情報サイト「福祉のお仕事」で公開しています。

インターネットから求人情報を取得して、求職者が直接応募することも可能ですが、採用が決定したおおよそ7割の方は「求職者登録」を行い、「紹介状」を持って応募しています。

当センターに求職者登録をして、求職者情報

(個人情報を除く求職条件)の公開をすると、求人登録事業所からのスカウトを受けることができ、効率的に求職活動を進めることができます。

また、求職者登録期間中は、求人情報の他、求人応募に対する紹介状の発行、研修、イベント情報なども提供します。福祉の仕事をお探しの方は、ぜひご登録ください。

- 登録期間は、登録した月を含めた3カ月
- スカウトサービスの対象者(求職者情報公開の承諾者のみ)
- 求人応募に対する紹介状の発行
- 求人情報や研修、イベント情報の提供(定期的に郵送)

お問い合わせ

山梨県福祉人材センター…〒400-0005 甲府市北新1-2-12 山梨県福祉プラザ4階
☎055-254-8654 FAX055-254-8614
E-mail…jinzai@y-fukushi.or.jp

- 「山梨県社会福祉協議会」ホームページ…<http://www.y-fukushi.or.jp/>
- 「福祉のお仕事」ホームページ…<http://www.fukushi-work.jp/>

窓口ご利用時間 午前9時から午後5時まで【年末年始・土・日曜日・祝日は休み】

平成26年
4月号から

『福祉のしごと求人求職ニュース』が変わります

平成25年4月1日より、インターネット情報サイト「福祉のお仕事」の新機能として、登録求職者の情報(個人情報を除く)を、登録事業所専用ページ上で検索・閲覧できる「求職者情報検索・閲覧」機能が追加され、常に最新の求職者情報が確認可能となりました。

これに伴い、これまで『福祉のしごと求人求職ニュース』

の紙面上で提供してきました「求職者情報」は、平成26年3月号をもちまして掲載終了とします。

なお、「求人情報」は、引き続き求職者の皆様に向けて「福祉のしごと求人ニュース」(仮称)として情報提供していきます。

「第16回介護支援専門員実務研修受講試験」の状況

平成25年10月13日(日)に介護支援専門員実務研修受講試験が実施されました。これは、介護支援専門員(ケアマネジャー)として登録するために必要な実務研修の受講者を定めるための試験です。合格者は1月から3月までに開催される実務研修を受講します。

全国で一斉に試験を実施し、山梨県では920名(男性311名・女性609名)が受験しました。合格者は138名(男性43名・女性95名)で、受験者総数に対する合格率は15%(男性13.8%・女性15.6%)です。(昨年度合格率18.9%。昨年度比-3.9%)。

合格された方々の今後の活躍に期待しています。

- 平成26年度の介護支援専門員実務研修受講試験は別途案内をします。
- お問い合わせ先…福祉人材研修課 ☎055-254-9955

保有資格別合格者数

職種	合格者数(人)	比率
介護福祉士	97	70%
看護師	10	7%
社会福祉士	9	6%
理学療法士	4	3%
作業療法士	4	3%
保健師	3	2%
相談援助業務従事者	3	2%
介護等業務従事者	3	2%
歯科医師	1	1%
薬剤師	1	1%
あん摩マッサージ指圧師	1	1%
柔道整復師	1	1%
精神保健福祉士	1	1%
合計	138	100%

体位変換用具

1. スライディングシート

利用者の負担を少なく安全に移動

少しの力でらくらく移動・体位変換時に役立つ用具。ベッド上の位置修正や移乗時に、頭や背中、お尻部分に敷き込むと少しの力で移動ができます。
※介護保険レンタル対象品となっています。介護保険のサービス利用でレンタルされる場合は、1割負担で借りることができます。

トランスファーシート S・Mサイズ

S:3,000円(税抜)・M:6,000円(税抜)

薄手で敷き込みやすい筒型スライディングシート。生地が薄いので敷き込みやすくなっています。介護者の腰痛防止や身体の大きな利用者の移動、位置修正が負担なく行えます。



滑り止め

2. 滑り止め テープ・シート

滑りやすい床や階段、浴室などですべってバランスを崩して大怪我…なんてことになる前に、滑りやすい場所や手すりなどに、気軽に使える滑り止めテープやシート。必要な分だけ切って使えるので簡単に滑り止め加工ができます。

冷たい金属手すりのヒヤリ感も解消

万能滑り止めテープⅡ

(幅95mm×3m) : 4,350円(税抜)

手すり用滑り止めテープ

(幅25mm×2m) : 1,000円(税抜)

屋内用の耐水滑り止めテープ。赤、茶、オレンジの3色で、赤とオレンジは視認性も高く、眼が悪い方にも見えやすい色になっています。茶色に関しては、木材の色にも合わせられます。



階段用すべり止めシートⅡ

(10枚入り)

蓄光なし : 13,000円(税抜)

蓄光あり : 15,000円(税抜)

階段や廊下等に貼る滑り止めシート。蓄光タイプは暗闇で光り、より安全に配慮されています。茶、オレンジの2色。(蓄光タイプは茶のみ)



生活便利品

3. 調理器具

アペックス1合炊飯器

2,500円(税抜)

電子レンジで簡単にご飯が炊ける炊飯器。普通のご飯から、やわらかめのご飯、全粥から、舌でつぶせるお粥まで作れます。1合炊きなので、独り暮らしの方やあまりご飯を食べない方、ご家庭で1人だけお粥というときに便利です。



レンジで加熱10分
食器洗浄・乾燥機使用可能

体験コーナー開設中

今回ご紹介した福祉用具は山梨県立介護実習普及センター(山梨県福祉プラザ1階)展示室で実際に体験していただけます。

お気軽にお問い合わせください。

問い合わせは、

山梨県立介護実習普及センター

TEL 055-254-8680 FAX 055-254-8690

全国180万人加入 !!

ボランティア活動保険

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

Aプランは
死亡1,200万円
入院6,500円、通院4,000円
賠償責任5億円(限度額)
を補償

活動場所と自宅
との往復途上の
事故も補償

ボランティア活動
のための
学習会・会議など
での事故も補償

ボランティア自身の
食中毒・熱中症・
特定感染症もOK



	基本タイプ	天災タイプ
年間 保険料	Aプラン 300円 Bプラン 450円	460円 690円

◇天災タイプは基本タイプ+地震・噴火・津波を補償

*各プランの補償金額、補償内容などの詳細は、専用のパンフレットをご用意しておりますので、最寄りの社協にお問い合わせください。

ボランティア行事用保険

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償!

- 行事参加者(主催者〔個人〕を含みます。)全員のケガを補償(往復途上も含みます。)
- 行事主催者の損害賠償責任も補償



福祉サービス総合補償

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償!

- 在宅福祉サービス (公的介護保険対象外サービスを含みます。)
- 障害福祉サービス
- 児童福祉サービス
- 障害者地域生活支援事業 など
- 地域福祉サービス

送迎サービス補償

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償!

- 送迎・移送サービス利用者を特定したプラン
- 送迎・移送サービスのための自動車を特定したプラン

お申込み、お問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ

社会福祉法人
全国社会福祉協議会

この保険は、全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

〈引受幹事保険会社〉日本興亜損害保険株式会社
TEL:03(3231)7545



報告・ご寄附

高齢者総合相談センター (シルバー110番)の廃止について

本センターは、県社協が山梨県より受託運営し、高齢者やその家族等が抱える保健・福祉・医療などにかかる各種心配ごと、悩みごと相談に応じてきましたが、平成26年3月31日(月)をもちまして廃止することとなりました。

しかしながら、県民から現在もまだ数多くの相談が本会に寄せられておりますので、相談事業を打ち切ることなく当分の間、従来通りの「生活全般」や「生活困窮」などの相談に対応しますので、お気軽にご相談ください。

■相談窓口 ☎055-254-0110

善意をありがとう

手編みの帽子の贈呈

甲府市東光寺にお住まいの野中のり子様より、テレビ山梨厚生文化事業団(秋山正文事務局長)様を通じて、手編みの帽子150個が寄贈されました。野中さんはご自身も障害を抱えながら、平成元年からこの活動を始め、これまで7,000個以上の帽子が社会福祉施設などに届けられてきました。

今回寄贈された帽子は、特別養護老人ホーム和久園、奥湯村園、志麻の郷・湯村に寄贈させていただきます。ありがとうございました。



車いすの贈呈

このたびマックスバリュ東海(神尾啓治代表取締役社長)様から車いすが寄贈され、去る11月29日、山梨県福祉プラザにおいて贈呈式が行われました。

同社では、各店舗で回収するアルミ缶や牛乳パックの売却による収益金で、車いすを購入し寄贈しています。

今回は甲府市社会福祉協議会をはじめ13市町村社協に贈呈され、平成17年度から始まった県内での寄贈台数は85台になります。

寄贈された車いすは、各市町村社協で実施しているデイサービス事業や地域住民への貸し出しなどに有効に活用されます。ありがとうございました。



BIG統括本部
稲葉徹本部長
(左)

甲府市社協
佐藤健会長
(右)

生活物資(食料品等)の贈呈

JA共済連山梨(秋山正直本部長)様から生活物資(食料品等)を寄贈いただきました。寄贈団体様の趣旨を尊重し、有効に活用させていただくことし、NPO法人フードバンク山梨に全てを寄託いたしました。ありがとうございました。



JA共済連山梨
飯窪一浩副本部長
(右)

県社協
小尾俊二事務局長
(左)

寄付金の贈呈

山梨ヤクルト販売株式会社(上田聡彦社長)様から200,000円のご寄付をいただきました。同社からの寄付は、累計額10,267,730円になりました。

寄付金は山梨県民間社会福祉基金として積立を行い、その一部を予算化し、福祉救援などの事業を実施するために活用させていただきます。ありがとうございました。



ヤクルトレディ(左)
県社協
窪田守忠
常務理事(右)

寄付金の贈呈

山梨ともじび基金では、社団法人山梨県労働者福祉協会(渡辺一彦会長)様と日本労働組合総連合会山梨県連合会(中澤晴親会長)様から、それぞれ100,000円のご寄付をいただきました。

これまでに寄せられた金額は、両団体累計で4,715,000円となりました。

寄付金は、障害者・児童・高齢者福祉やボランティアの各分野で普及啓発、養育訓練、調査研究などの事業や活動を行っている団体への助成基金として活用させていただきます。ありがとうございました。



山梨県労働者福祉協会
渡辺一彦会長(右)

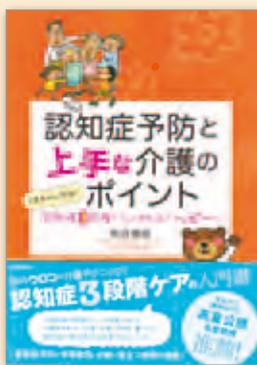


連合山梨
中澤晴親会長(右)

貸し出し 図書紹介

『認知症予防と上手な介護のポイント』

～くまちゃん先生の「認知症3段階ケア」でみんなハッピーに～



この本は、認知症の周辺症状を大きく3つの段階(混乱期・依存期・昼夢期)に分類し、症状の改善が期待できるそれぞれの段階に応じた治療方法や介護方法を紹介しています。認知症の基礎知識から、予防や早期治療の重要性などを解りやすく解説。過去のエピソード例や図表・イラストなどを用いて、読みやすく、解りやすい内容。巻末には、資料として認知症疾患医療センターの主な役割と一覧表が、各都道府県ごとに記載されています。

■著者:熊谷 頼佳(くまがい よりよし)氏

■発行所:株式会社 日本医療企画

〒101-0033 東京都千代田区神田岩本町4-14 神田平成ビル

URL <http://www.jmp.co.jp/> TEL 03-3256-7495

この書籍は、介護実習普及センターで貸し出しを行っています。この他、介護・看護・福祉についての本283冊、ビデオ・DVD193本の貸し出しをしています。詳しくは県立介護実習普及センターにお問い合わせください。 ☎055-254-8680